



全農長野県本部情報／グリーン レーダー Vol.464

Contents

新春にあたって ～平成30年 年頭メッセージ～

A-Policy 重点事業方針

- ・長野県ブランド品種「風さやか」に適したBB肥料の開発
- ・平成29年度 野菜・花きの中期事業計画の進展状況
- ・段ボールのコスト削減と機能強化を図り、生産者の手取りと生産性の向上を目指します
- ・クミアイプロパン松本センターの事業展開について

2017年 各部の3大ニュース 9

グループ会社紹介／

・一般社団法人 長野県農村工業研究所 15

A-Reports／

・JR東日本タイアップ 大宮駅でサンふじの出荷スタートをPR ... 17

A-Board／

・信州がおいしい農協牛乳 頑張れ！ 御嶽海関キャンペーン 17

・JA全農長野の事業現況 18

・1月の動き 18

・1月のラジオ番組表 18

・編集後記 18

新春にあたって

（平成30年頭メッセージ）

あけましておめでとうござい
ます。輝かしい新春をご家族お揃い
でお迎えのことと心よりお慶び申
し上げます。

昨年は、九州地方をはじめ、全
国各地で豪雨災害が頻発した年で
ありました。長野県におきまして
も、9月・10月の台風により果樹
の落果、圃場の浸水等多岐にわた
る被害が発生いたしました。被災
された皆様には心からお見舞い申
し上げます。

私も運営委員会会長に就任しま
して、1年半が経過いたしました。
長野県本部の運営につきましては、
県本部総合経営管理体制の堅持と
いう県本部経営管理の基本を踏ま
え、「会員J Aとの一体的な事業
運営により、生産販売から購買ま
で一貫する総合経済事業を通じて、
J A組合員の生活の向上に貢献す
る」という基本理念に添い、引き
続き健全な事業運営と長野県農業

の発展に努力していく所存であり
ます。

ご承知のとおり、政府は平成28
年11月「農林水産業・地域の活力
創造プラン」を改訂し、平成29年
6月には規制改革推進会議の答申
に沿ってまとめられた「農業競争
力強化プログラム」に基づく関連
8法案が通常国会で成立しました。
全農長野県本部としては、

「中期事業ビジョン」に連動する
「中期計画（平成28～30年度）」を
着実に実践するとともに、昨春秋
には「長野県本部自己改革強化策」
をとりまとめ、既に取組みを強力
にすすめているところであります。

また、「農業競争力強化プログ
ラム」に基づき、卸売市場法の見
直しが検討されてきましたが、衆
議院議員選挙後、規制改革推進会
議から現場の実態を無視した提言
が出され、農水省から卸売市場法

の廃止を視野に入れた改革案が示
されました。結果的には、食料の
安定生産や国民への安定供給に貢
献している卸売市場の機能が評価
され、卸売市場法が堅持されるこ
ととなりました。但し、今後は流
通動向・実態を踏まえた見直しを
進めることとされております。政
府・与党には引き続き我々の考え
をしつかりと訴えていく所存であ
ります。

このほか国際貿易交渉をめぐる
情勢も含め、農業・農協にとって
大きな課題が山積しており、今年
も厳しい環境が想定されます。

全農長野県本部は、J Aおよび
グループ会社とともに自己改革の
進展を加速させ、営農支援体制の
充実・農業所得の増大と地域の活
性化に取り組んでまいります。

1月は旧暦では「睦月」と呼ば
れ「家族・親戚が親しく睦まじ
くする」との意味があるとともに、

その年に植える稲の実を始めて水
に浸す「実月（むつき）」が転じ
たとの説もあります。旧暦が示す
とおり、農業は日本人の生活・文
化・風習に深く根ざしたものであ
り、私たちJ A組織は、日本を形
成してきた大切な農業を未来に引
き継いでいく使命もあると考えて
おります。

平成30年が組合員はじめ地域の
皆様にとって更に飛躍の年となり
ますようご祈念申し上げ、新春の
ご挨拶とさせていただきます。

全国農業協同組合連合会長野県本部
運営委員会会長 雨宮 勇



生産資材課

長野県ブランド品種「風さやか」に適した B B 肥料の開発

全農長野県本部生産資材課では、
地域や作物の特性に合ったB B
(Bulk Blending：粒状配合) 肥料を
開発し、収量・品質の向上をはかる
ことによって生産者手取りの向上を

目指しています。その中から本年供
給を開始した長野県の水稲オリジナ
ル品種に適した専用肥料の開発につ
いてご紹介します。



長野県で栽培されている水稲品種
は主として「コシヒカリ」ですが、「風
さやか」は長野県農業試験場が開発
し、平成25年3月に品種登録された
長野県オリジナル品種のお米です。
その特徴は、あつさりとした食感、
冷めても「もっちり」とした食感と
美味しさ、しつかりとした旨味と甘
味があり、粘り・味・香り等、食味
のバランスがよい、とされています。
(<https://nagano-kazesayaka.net>
より)

「風さやか」は「コシヒカリ」に
比べ、出穂期・成熟がやや遅い中晩
生品種で、稈長が短く耐倒伏性に優
れ、穂いもち病に比較的強いなどの
栽培特性があります。多肥により収
量を高める事は可能ですが、整粒歩
合の低下、玄米タンパク含有率の増
加、食味の低下などが懸念されるた
め、栽培マニュアルでは品質を重視
し「コシヒカリ」並みの施肥量が推
奨されています。

専用肥料の開発は平成26年より中
信地域を中心に県農業改良普及セン
ター・関係J Aと共に開始し、現地
試験を経て平成28年に終了。全県銘
柄の「風さやか専用肥料」として供
給が開始されました。夏季の穂肥の
労力の軽減のため被覆肥料を用いた
一発型とし、適正粉数の確保、順調
な登熟の図れる配合をいくつか試作
し、県、全農、J Aが参加して大規
模農家も含めた現地試験の結果に基
づいて採用が決定されました。他の
地域でも試験が行われており、統一
した施肥による品質の維持により、
「風さやか」のブランド確立への貢
献を進めたいと考えています。

機動的な対応が可能というB B 肥
料の特長を活かし、こうした専用肥
料の開発により新品種開発に伴う施
肥などの栽培体系確立や、各地域の
農作物ブランドの確立のお手伝いを
していくことも一つの方向として強
化してまいります。

野菜花き課

平成29年度

野菜・花きの中期事業計画の進展状況

平成29年度の事業計画は、野菜事業579億60百万円、花き事業67億5百万円、購買種苗事業810百万円であり、合計654億75百万円の事業計画の達成に向けて事業を推進してきました。

1. 野菜事業の進捗状況について

本県野菜の生産販売において、本年は期間を通じて特異的な気象条件でした。出荷最盛期の夏場においては、全国的には西日本が高温傾向、東日本は低温傾向、県内でも全般的に日照不足の中で、降水量が地区によつて極端な状況でした。

本年の出荷開始は、前進化していた昨年に比べて、低温干ばつ傾向の中で、6月中旬までは生育が停滞しました。この後の降雨により全国的に野菜が豊作基調となり、果根菜類を含めて全般的に価格低迷が続きました。この対応策として、量販店等

への売り込みや、店頭試食宣伝会を昨年以上に実施し、拡販による消費喚起を進めました。また平暖地物の残量もあり全国流通量が多かつたためレタスを中心に盆前まで調整廃棄事業を実施せざるを得ない事態となりました。

この間に入梅以降空梅雨が続き、梅雨明け後は全国的な日照不足、多雨であつたため、盆後は作柄の悪化と低温傾向により生育が停滞することになりました。気象条件の回復とともに停滞していた作柄も回復し全国的に大豊作となり価格低迷が続きましたが、10月下旬に発生した2つの台風影響により全国的に野菜が品薄となり、価格が回復することになりました。

このように本年は出荷数量、販売価格も極端で、出荷開始の遅れ、豊作基調による安値により、野菜事業の3月末見通しは計画対比91%の約

540億円で計画達成が難しい状況にあります。主力産地での労力確保が順調であり、数量は前年比103%（11月末時点）と確保することができましたが、現在ナガイモ、アスパラガスの集荷販売対策を進めているところです。

近年北海道、東北産地の生産が不安定であり、輸送情勢の変化もあり本県の野菜に対する市場、実需者からの期待が高まっているとともに、毎年極端な気象条件下ですが、高品質で安定的な生産が求められています。

次年度に向けて葉洋菜主力品目の計画生産や果菜類等の生産振興をさらに進めます。併せて異常気象から出荷量も年々不安定な状況になっているため、生産者の安定的な手取りの確保に向けて、適正生産、契約取引対応、出荷見通しに基づく売込み、消費喚起の取組み等を進めます。

【野菜の重点推進事項について】

(1)夏ハクサイ、レタス類（特にリーフ系レタス）の需要に見合った適正生産については、過去4年の好調な販売結果から、再び過剰生産となつてしまった可能性がります。現在、本年度の作付け実態を検証すると共に、次年度に向けての夏ハクサイの代替作物を示しながらの誘導や、レタス類の適正生産誘導を進めています。

(2)ここ数年常に課題となる秋作の生産安定については、年々気象変動が極端になつており、対策が追いつかない状況ともいえますが、栽培技術体系の見直し、優良品種選定など対応を進めます。

(3)果菜類の生産拡大については、遊休パイプハウスを利用してのミニトマト栽培や、規格簡素化した業務用キュウリの導入などモデル的な事例が徐々に拡大してきていま

す。また、収穫作業の機械化につ

いては農機のレンタル事業も活用し、業務用キャベツにおいて進めてきています。

(4)販売においては、明確な実需者との契約取引の更なる充実を進めるとともに、需給調整機能の更なる發揮に努めます。

2. 花き事業の進捗状況について

主力の輪ギク、カーネーションの作付け減退に歯止めがからない中、生育初期から低温傾向で推移した気象の影響で、本年度の生育は総じて遅延傾向となりました。7月の干ばつ、8月の曇天の影響も受け8月旧盆需要、9月秋彼岸需要へ向けた出荷は、キク類を中心に需要期に間に

合わなかつた物も多く、厳しい販売

になるとともに出荷量の減少を招く結果にもなりました。

10月は台風の影響による曲がりや擦れなどの品質低下や施設への被害が発生し、全国的に秋以降の流通量が減少する要因にもなりました。

秋需要期の仕入れが強まる中、土壌病害対策を徹底したトルコギキョウは昨年以上の出荷量を確保することができ、10月以降に本格出荷となるアルストロメリアも夏場の株養成を徹底したことから順調な出荷となりましたが、キク類やカーネーションの減少をカバーするまでには至っていません。その結果花き事業の3月末見通しは計画対比90%、約60億円を見込んでいます。

作付けの維持拡大とともに既存生産圃場の出荷効率向上に努めてきま

したが、高齢化等による作付けの縮小や気象経過が与えた影響が予想以上に大きく、次年度の作付けや栽培管理に課題が残りました。引き続き品質的、物量的に安定した生産が出来るよう努め生産量の拡大を目指します。

【花きの重点推進事項について】

(1)主要品目や地域の特産品目について、新規栽培の誘導に加え作付けや仕立て方法など多様な提案を行うことで、新たな取組みによる生産も始まっています。

(2)量販店需要向けのコギクについて、多収穫省力型の専用栽培による生産拡大を継続して進めています。

8月旧盆需要向けを中心に推進中ですが、9月秋彼岸需要を狙った作型も始まつており今後拡大の予

定です。

(3)本県重点実需者への安定取引を目的に複数JAによる供給販売に取り組んでいます。アルストロメリアやカーネーションでは県下複数JAによる長期予約取引や合同宣伝会を実施し、栽培面でもトルコギキョウを含め統一的な栽培講習会や技術的な情報交換会を実施するなど他品目に先駆けた取組みが進んでいます。

(4)花き栽培に関わる技術指導やこれからの生産振興と産地づくりを進めるため、現場を基本とした講習会や巡回指導会、またJA長野県営農指導者会議花き専門部の活動を通じて技術の継承と人材育成に努めています。



包装資材課

段ボールのコスト削減と機能強化を図り、生産者の手取りと生産性の向上を目指します

現在、長野県内の系統青果物流通の約95%で段ボールが用いられています。段ボールの機能としては、輸送・保管する際の内容物の保護、荷扱いの利便性、内容表示による情報提供などが上げられ、流通上欠かせない資材となっています。

また、段ボール箱の組み立てや荷扱い、さらに販売上の観点からも機能性を有した段ボールの開発が求められているとともに、出荷する際に必ず必要となる資材であるため、コスト引き下げは常に目指さなければなりません。

全農長野県本部包装資材課では、生産現場・流通・販売サイド等からの要望を踏まえ、コスト削減に向けた取り組みや、機能性向上を目指した段ボールの開発を進めてきました。ここでは本年度のコスト削減に向けた取り組みを紹介いたします。

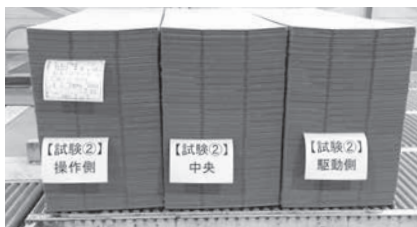
■原紙の集約

リングなど強度が求められる段ボールには「強化中芯」という原紙が多く用いられており、長野県では約20%の段ボールに「強化中芯」が使用されています。これまで全国のJAでは「強化中芯」と「準強化中芯」の2種類が製造・流通されていましたが、新たに全農が開発した「新

強化中芯」に集約することにより、原紙の生産性・流通効率が上がリコスト削減につながります。

本年度は、各産地の主要品目で「新強化中芯」の輸送・保管確認等を行い、実用化に向け試験を重ねた結果、現行品と比べて総合的に問題ないと判断し、平成30年産用からの移行を進めています。

新強化中芯試験
原紙の張り合わせ確認



新強化中芯試験
箱製造確認



新強化中芯試験
リンゴ段ボール輸送確認



新強化中芯
キュウリ段ボール輸送試験



■段ボール規格の集約

段ボール工場では、製造品目を切り替えることにラインを停止させる必要があるため、少数多品目では製造効率が悪くなり、コストアップにつながります。1,000枚製造時と比較し、500枚未満では2倍、100枚未満では10倍以上の製造コストがかかる場合があります。また、1,000枚以下の製造では、ラインが停止している時間の方が多いほどです。

当県本部では、わずかな寸法の違いなど、類似している規格の集約を進め、製造効率を上げることによりコストダウンを図っています。本年度は、ブドウ用では材質の統一、リーフレタス類用では製造型の統一、えのきたけ用では寸法・材質の統一を提案し、各産地で試験を進めました。



規格の統一化試験 サニーレタス段ボールの型統一

■六角段ボールの推進

段ボールの価格構成において、原紙代が占める割合は大きいため、原



六角段ボール



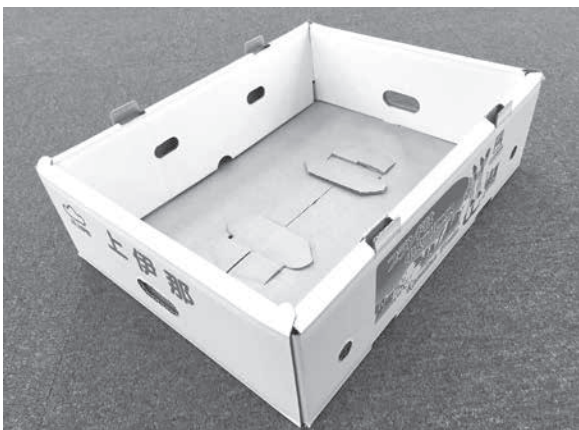
六角段ボール はくさい段ボール輸送試験

紙の使用面積(才数)により価格は左右されます。通常段ボールは四角ですが、六角にすることにより使用面積(才数)を小さくすることができ、価格を引き下げることができます。JA木曾の協力を得て2年前から形状の検討を重ね、本年は一定期間ハクサイの通常出荷に用いました。検証を重ねるなかで、価格引き下げメリットだけでなく、強度の向上やこれまで課題になっていた段ボールの縦割れを抑制する効果も確認されました。試験結果を踏まえ、次年度の本格導入に向け進めています。

■ツイン野線段ボール

果実を中心に多く使用されている「オープン段ボール」は、フタがないので、中身の商品アピールには向いていますが、箱の組立てに時間を要することが課題でした。

一方、「ツイン野線段ボール」は、通常の箱(みかん箱形状)のように組立て、最後にフタを内側に折り込むことでオープン箱形状にします。組立て時間が大幅に短縮でき、共選所での作業性が上がりました。



ツイン野線段ボール

最後に、青果物段ボールは、降雨の中での収穫等、過酷な気象環境下で用いられる場面も多く、一般的な段ボール以上に耐水性や耐圧強度などの品質レベルが求められます。万が一、強度不足等で段ボールが歪み破損すると、青果物の商品価値を下げることになります。

今後もコスト削減の追及のみならず、このような品質レベルの向上も図り、系統段ボールの優位性の維持に努めていきます。

■適正包装(過剰スペースの見直し)の取り組み
出荷規格の変更や流通事情の変化等により、過剰スペースとみられる段ボールの規格の見直しを進めています。たとえば、それほど湿度が高くない環境で流通される品目については、「撥水原紙」から全農開発原紙の「AK原紙」への変更を進めています。また、白箱から茶箱に変更することでもコスト削減につながります。

燃料・ホーム
エネルギー課

クミアイプロパン松本センターの 事業展開について

全農長野クミアイプロパン松本センターは、平成27年2月1日に設立し、センター長1名と担当者1名の2名体制を取っています。業務全般を自主実施していますが、夜間・休日の緊急対応と配送業務は委託により実施しています。

以下に、同センターの事業についてご紹介します。

■取り組み状況

1. 保安の向上

(1) 期限管理の徹底
保安点検（4年に1回）、ガスメーター（使用期限10年）・調整器（同7～10年）・ガス漏れ警報器（同5年）の交換を期限内に実施するため、半年～1年程度の前倒し実施を進めています。

(2) 漏洩対策の強化

① ガスメーターの保安情報が電話回線を通じて随時取得できる

2. 営業活動

(1) P R 活動

お客さまに最新ガス器具の安全性・便利性を知ってもらうため、経年ガス器具ご使用のお客様にダイレクトメールを送付し、ガス器具交換を促しています。また、JA松本市のJA祭会場内で開催したガス展示会にて、ガス器具調理による試食を実施し、おいしさと

「安全化システム」の設置戸数拡大を進めています。また、ガス漏れ警報器を音声式に更新することで、お客さまにとっての安心感と分かりやすさの向上を図っています。

② アパート物件の保安高度化のため、漏洩発生を迅速かつ正確に把握できるガス漏れ監視設備（通称・モレケン）の設置を進めています。

便利さをPRしました。

(2) アパートオーナーとの関係性強化
定期的にオーナーを訪問し、関係の円滑化に努めています。

(3) 快適な生活提案

既存アパートの建替えに際し、各部屋へのガスファンヒーター導入を提案し、オーナー・管理会社に採用されました。遠方からの入居者もいる中で、松本市の厳しい冬でも暖かく快適な暮らしを提供しています。

■今後の展開

家庭でのエネルギー消費の大半を占める厨房・給湯・暖房においてし

Pガスが選ばれるためには、「用途別に便利性と経済性をいかに発揮できるか」にかかっています。そのために、用途別に消費したガス数量に応じた料金設定等、「ガス料金の更なる透明化」が必要になると考えられます。このことに備え、当ガスセンターでは「ガス器具毎にガス消費量を積算することができる最新のガスメーター（ハイブリットカウンタ付超音波型メーター）の導入を始めています。

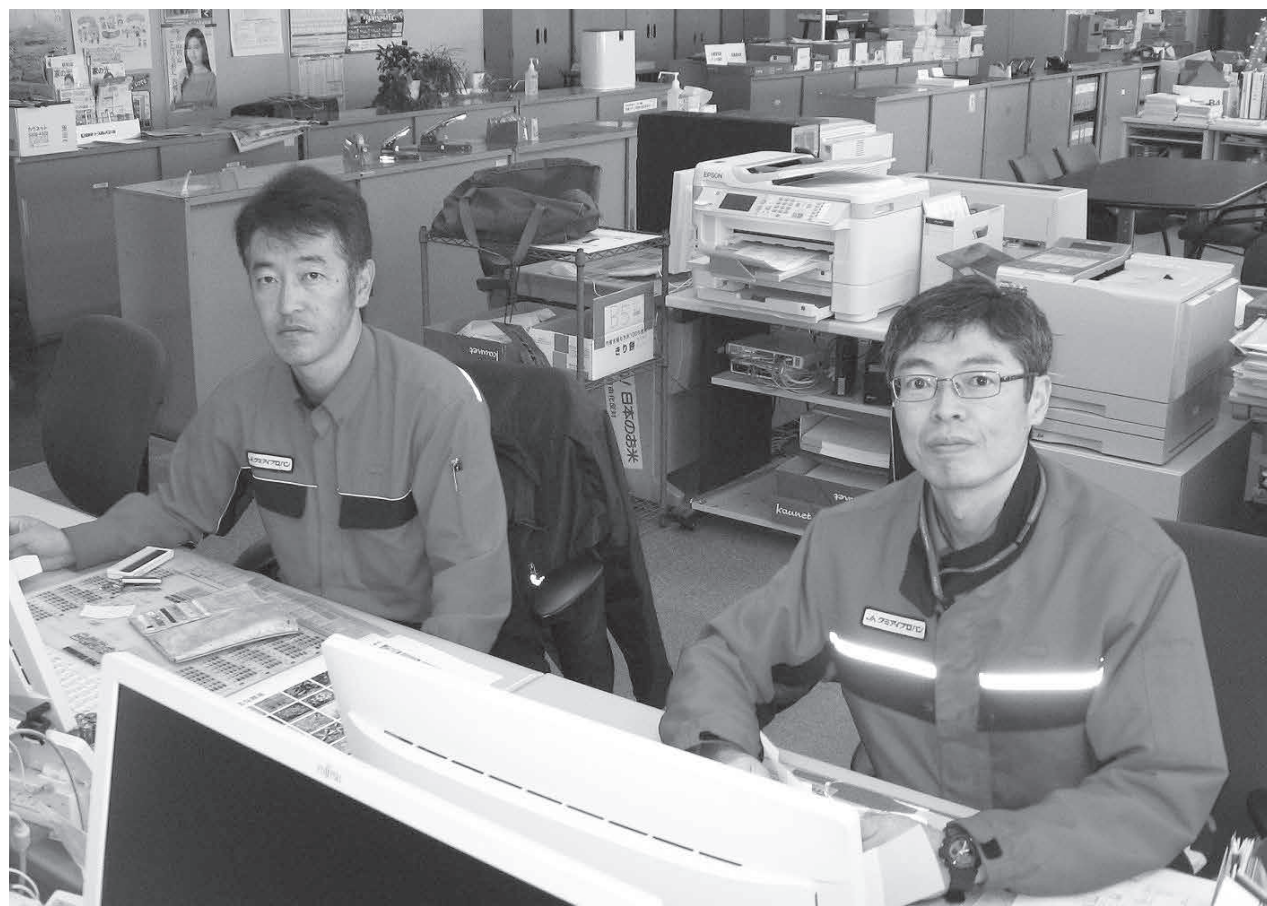
今後も最新メーターの設置を拡大し、お客さまのライフスタイルに適したガス料金体系の模索・検討を進めていきます。



ガスファンヒーター



ハイブリットカウンター付き 超音波型メーター



鷹野センター長(右)と増沢嘱託主任調査役



ガス漏れ監視設備(通称／モレケン)



業務車両とボンベ車

2017年 各部の3大ニュース

「JA長野県営農センター」

1 JA長野県グループ農作業事故防止の取組み

農作業中の死亡事故は、マスコミ等で大々的に取り上げられることがあまりないため認知度が低いと思われますが、年間約350件発生し、就業人口10万人当たりの死亡者数は建設業を上回る状況となっています。

長野県内においても農作業死亡事故は毎年発生しており、時期的には、その年の農作業が本格化し機械を使用し始める4、5月の発生が多く、1日のうちでは昼前や夕刻など作業終了間際で疲労のピークで集中力が散漫となる時間帯に事故が集中しています。特に、平成28年度は18件と過去最多となり、トラクターの転倒やSS・耕運機の転落などにより下敷きとなるなど悲惨な事故が多く、当営農センターとしても危機感を持ったなかで、昨年度より農作業事故防止の呼び掛けを積極的に



農業作業事故防止を呼びかける街宣活動

行ってきました。特に本年度は県および長野県農業機械商業協同組合とも協力し、春先より宣伝活動を展開してきました。

具体的取り組み事項は次のとおりです。

○JR長野駅前での街頭宣伝活動
(5/1、9/4)

○SBCラジオ「いいJAん!信州」出演による農作業安全の呼び掛け
(4/26、8/23、9/8)

○各種会議における農作業安全の呼び掛け
(4/17、10/4、12/7)

また、本年度は県の主催による「農作業安全推進研修」が8月と2月に開催されるため、当センターとしても積極的な参加を呼びかけ、農作業安全の推進を図っていききたいと思います。

2 リンゴ高密度植わい化栽培の推進

リンゴの国内生産量は減少の一途を辿っており、農水省によれば平成25年のリンゴ需要は国産65・6万トンに対して、輸入は大半が果汁として入ってきており生果換算で62・6万トンとほぼ拮抗している状況にあります。

従来果実生産は嗜好品であるため、より高品質なものを生産し、より高い単価を目指してきました。しかし、これまでの栽培方法(喬木、わい化栽培)では2トン弱/10aという反収であり、

単純計算で10a100万円売り上げるには、500円/kgで売らないと確保できません。一方、高密度植わい化栽培であれば、植付から3～4年で7～8トンの生産が可能で、kg単価が半分の100円だとしても70万円の売り上げが確保できることになります。これで足りない分は面積を倍作れば140万円となります。高密度栽培は脚立等を使わずに地上部で7割方の作業が可能ですので、倍の面積を栽培することも可能となります。そして、輸入品の価格水準での果汁原料を供給できれば、そのポジションを国産に取り戻せる可能性を秘めています。

この高密度植わい化栽培を進めていくためには「フェザー苗」と言われる特殊な苗が必要です。中期事業計画においてこの苗木の増産体制の構築を掲げており、既存の(株)ホスピタル朝日での委託生産を基盤として、上伊那の(株)JA菜園での増産に向けての試験栽培などを行っています。

そして、価格競争力のあるリンゴ栽培方式への転換の推進と生産者の手取り向上に向けて、「高密度植わい化研究会」の開催や、この栽培方法の本場であるイタリアの南チロルへJAの技術員を案内し見聞を深めてもらい、帰国後地元JAでの普及推進を進めるよう取り組んでいます。

平成28年現在本県のリンゴ栽培面積は7,400ha。そのうち推定で250haが高密度植わい化栽培と見られています。栽培方式の切り替え機運が生産者段階でも高まってきており、「フェザー苗」の供給体制を構築しながら生産拡大を進めていきたいと考えています。

3 担い手支援システムの開発

従来「農家巡回システム」として、営農指導員の組合員訪問記録を記録する仕組みがありましたが、利用開始から時間が経過し、現状の営農指導の場面では機能が不足している面が発生してきたため、新たに「担い手支援システム」ということで再構築することで昨年度から開発を進めてきました。本年度に入り、JAの営農指導員の現場における必要な機能や情報を確認するなかで、システムの要件定義を行い、現在具体的な機能の作り込みに入っています。

「担い手支援システム」が持つ主な機能は下記のとおりです。

- 営農指導員の活動日誌記録
- 担い手への訪問記録
- 担い手情報 農地、経営、販売購買履歴等)の閲覧、情報追加記入(農地についてはGoogle地図上で1筆ずつ登録し閲覧できる)
- スマートフォンからも一部機能を利用できる。

現在、システムを動かすのに必要なマスターの整備に取り掛かっており、平成30年の3月から4月にかけての運用開始を目標に準備を進めています。

【生産販売部】

1 青果物花き取引会議(果実課)

平成29年6月1日、メトロポリタン長野において、平成29年度青果物・花き取引会議が長野県阿部知事の出席を頂き総勢90名の出席のもと盛大に開催されました。主催者として雨宮会長から、日ごろのお取引の御礼と、生産販売部取扱目標1,596億円に向け、卸売市場との更なるパートナーシップ構築の強化等について挨拶がありました。協議内容では、①産地と卸売市場が連携した青果物流通の今後の展開、②魅力ある農産物総合供給産地と、長野県の生産振興に望むもの、③花き市場流通の動向と、今後の生産振興の進め方 についてそれぞれ代表会社から提言をいただきました。



青果物花き取引会議

2 米・果実の輸出事業流通調査について(米穀課・果実課)

米穀課では、長野県の重点取引先である東洋ライス(株)と連携し、機能性や栄養価を高めた商品(金芽米(長野県産コシヒカリ)の輸出に取り組んでいます。

輸出数量の拡大に向けてシンガポールでの販売の方向性を確認するため、10月10日～13日にかけて現地視察を行いました。スーパー・百貨店、シンガポールでの知名度が高い産婦人科医院「トムソン・メディカル」、「金芽米」



高密度植わい化栽培の圃場



JAファームは地域の営農を支える拠点として、今後も更なるサービス向上に努めます。皆様のご来店をお待ちしております。

新商品・地域のみなさまへ

JA長野県推奨農業機械

コスト低減に貢献

3機種登場!!

替刃 パーナイフ(1セット) サービス!

◎抜群の走行性能で 斜面もラクラク刈れる

【IORITZ】 畦草刈機 AZ851A (パーナイフ仕様)

メーカー希望小売価格 267,840円(税込)

税別価格 248,000円

オリジナルキャップ プレゼント!

◎大径タイヤ& ロングホイールベース

25馬力トラクター

【ISEKI】 RESPA RTS25

メーカー希望小売価格 2,695,680円(税込)

税別価格 2,496,000円

◎コンパクトボディで 畑のまに操る喜び

20馬力トラクター

【ISEKI】 RESPA RTS20

メーカー希望小売価格 2,265,840円(税込)

税別価格 2,098,000円

トラクターを ご成約のお客様に もれなく オリジナルキーホルダー プレゼント!

農業機械に関するご相談・お求めはお近くのJAへ。

JA農業機械センター・JA全農長野



第2区出品者古原敬久さんとJA長野ハク農協団

設による新鮮な商品提供、陳列棚・レジの配置替えや毒劇物陳列棚の新設によるスムーズな売場の展開などを図りました。

また、農産物の直売スペースを増やして欲しいという会員の声を受け、店舗内に設置された農産物直売所「さわやかグリーンセンター」の売場を一新、商品棚を2段にするなどの工夫も凝らしました。更に、お客様への接客・相談サービスの向上のため、店舗スタッフとして営農指導員の配置も行いました。

③「農業機械県域推奨型式」による重点購買メリット拡大の取組み

県本部自己改革強化策の柱として県域推奨型式による重点購買メリットの拡大に取り組みしました。型式選定にあたっては、県下JAの農業機械担当者から選抜された県域推奨型式研究委員で構成した計6回の委員会を経て、計3型式を設定しました。

1号機とした設定した20馬力トラクターは、29年5月より供給開始し、11月末現在で40台を農家組合員の方に購入いただいています。短期間で計画台

数(30台)を上回る購入をいただいた要因は、相見積り等による最も有利な条件での一括仕入れにより、低価格設定を実現できたことと、県域推奨型式研究委員会を中心とした県下JA農機担当者の結集力の成果であると考えます。本年度は、1号機の供給拡大と並行して、新たに25馬力トラクターと畦草刈機の2型式を県域推奨型式研究委員会に選定しました。30年度からの供給促進に向けて、農機担当者向け技術商品研修会の実施、購入者プレゼントの設定やチラシ・ポスター等によるPRに

①宮城県仙台市で「和牛のオリンピック」開催

5年に一度、全国の優秀な和牛を一堂に集め、改良の成果や優秀性を競う取り組みです。

県域推奨型式の取組みは、次年度以降も機種・クラスを拡大し、一層の重点購買による農家組合員へのメリット還元を目指します。

【畜産酪農部】

③大田市場でトップセールス(生産販売企画課)

長野県と全農長野県本部は9月4日(月)東京都中央卸売市場大田市場で、長野県の中島恵理副知事、当県本部の雨宮勇運営委員会会長出席の下、市場関係



大田市場で開催したトップセールス

者に向けたトップセールスを行い、旬の農産物をPRしました。

会場では、これから出荷が本格化するナガノパープルや、幸水、つがるの試食を用意し、瑞々しいおいしさを堪能していただきました。

その後の京浜地区の主要青果・花き卸売会社との意見交換を行い、午後には本県青果物を総合的に販売していたいている(株)スーパーアルプスとの懇談会を行い、卸売会社・仲卸会社・実需者と一体となった取組みを強化していくことを確認しました。

①新たな特徴を持った段ボールの普及

生産者や実需者のニーズに合わせて、より使いやすく、便利で、独自性の高い段ボールの導入に取り組みました。

本年は、①箱詰め時や上面フラップを井桁に組む際などに、箱の角に加わる力を逃して裂けにくくした箱 ②フラップを外側にもきれいに折りやすくして詰込みの作業性を上げた箱 ③穴からの破れを減らすとともに、指への食い込みを抑えて痛みを和らげる手穴形状とした箱 ④フラップの折り目にミシン目を入れ、カッターで封緘テープを切ることなく開封できる箱 ⑤6角形にすることで紙の使用量を削減し、角面を利用したPR効果や強度を向上した箱、などが採用されました。

こうした新たな箱の普及には、内容物の保護性、取り扱いの利便性、情報の伝達といった段ボールに求められる機能を高めるためのメーカーの開発力が発揮されています。また、これらの機能の多くは知的所有権を持ち、他との差別化により系統段ボールの優位性を高めていくことにつながっています。

今後も、産地・品目や流通の実態に

②JAファーム佐久店リニューアルオープン

3月23日、JA佐久浅間本所に隣接する農業資材店舗「JAファーム佐久店」をリニューアルオープンしました。リニューアルはJAの事業改革の一環によるもので、お客様の多様なニーズに応えることを目的として行いました。オープンセールでは園芸培養土の特価販売や小型農機の実演などのイベントを行い、約3,000人のお客様に来店いただきました。

リニューアルにより、下屋売場の拡大による農業資材の品揃えの充実、花き園芸売場の店外温室から店内への移



ミシン目により箱を開封

応じて、新たな付加価値をもつ箱を積極的に提案していきます。

【生産購買部】

①新たな特徴を持った段ボールの普及

スマイルサービスコンテスト美化1位の
JA上伊那・東部中央SS

マネージャー全体研修会

りを心がけてきましたが、本年度は5Sをテーマに加えてSS作りに取り組んでいます。

JA生活事業は、食品、日用雑貨用品、耐久消費財等、組合員の生活に必要な品目を供給する生活資材購買事業とされ、その形態は、店舗購買・組織購買に大別されます。店舗購買は、県内大型有力店舗は

③組織購買「新商品」への取り組み
量販店連携とセレモニー関連商品（生活課）

「安心感」と「信頼感」を提供する居心地の良いSS作りを進めていきます。

今後5Sの継続により、お客様に

「安心感」と「信頼感」を提供する居心地の良いSS作りを進めていきます。

4月と9月のマネージャー全体会議において、5Sをテーマとした研修を実施し、意識の統一を図りました。取り組んできた成果として、SSの美化と情報発信力をチェックするSS協同経営課主催の「スマイルサービスコンテスト」や、外部覆面調査員がお客様視点で調査する「MSサーベイ調査」において、全体で前年度より高い評価を獲得しました。

洋服の青山
ADYAMA TAILOR SINCE 1944

JA組合員の皆様へ

このたび、洋服の青山と新規提携を開始致しました。

洋服の青山より、お得な割引クーポン券と提携割引特典のご案内です。

ご来店の際は、本チラシを必ずご持参ください。

JA×AOYAMA タイアップカード会員様限定 **特別割引クーポン券**

有効期間：本日より2018年2月28日(水)まで

半額・10%OFF	半額・10%OFF	20,000円・10%OFF	17,000円・10%OFF
20%OFF・10%OFF	20%OFF・10%OFF	20%OFF・10%OFF	20%OFF・10%OFF

JA×AOYAMA タイアップカードのご案内

カードご入金・ご提示で割引後価格からさらに**10%OFF**

入会金・年会費無料 洋服の青山店舗にて即日発行

組合員に配布するチラシ例



布団供養の様子

平成27年に(株)長野県A・コープ営業開始により事業主体が変わりました。一部JAは生鮮品取扱ライオン店舗を委託運営しています。

組織購買は、女性部生活班共同購入、食材宅配・大型耐久材等の推進供給、組合員の葬儀をお手伝いする葬祭品供給による事業展開を実施していますが、事業環境が厳しく、多くのJAにおいて生活資材購買事業は収支確立が困難な状況となっています。

そのため、本年度は、組合員のニ

ズを捉えた新たな商品展開による経営

収支確立を目指し、積極的な商品開発

に着手してきました。

①量販店連携の取り組み（家電／エディ

オン・衣料品／青山商事）。組合員

が最寄提携量販店舗でお買物をする

際に、組合員特典を受けることを可

能にした連携事業をスタートさせま

した。本年度取扱JAはエディオン

2JA、青山商事9JAを見込み、

今後も連携先と取組JAの拡大を目

指していきます。

②新規葬祭関連商品の開発（(株)長野

エーコープサプライ）。葬祭事業の

拡大とともに、葬儀後のフォロー対応

が重要となっていることから、特殊

高圧洗浄による「墓石洗浄」と、故

人を安置した「布団供養」を新たに

商品開発し、取扱を開始しました。

今後も葬儀アフターの充実に向け新

たな商品開発に取り組んでいきます。

②「信州の牛乳」、「信州プレミアム牛肉」

テレビCM放映

「信州の牛乳」CMは前回から6年ぶりに新しいバージョンを製作。11月中旬から随時放映しています。朝、女の子が牛乳を飲んでいるシーンや牧場の前を自転車で駆け抜けるシーンなど、さわやかなイメージで信州産をアピールしています。

「信州プレミアム牛肉」は、昨年製

作した販売促進用DVDを再編集しCMを製作。牛肉消費の本場関西での知名度アップを狙って、KBS京都で12月9日から24日の16日間で50回放映しました。信州プレミアム牛肉は平成24年12月から京都・大阪の各食肉市場に上場し、その品質には高い評価を頂いています。今後も信州産ブランド「信州の牛乳」「信州プレミアム牛肉」のブランド強化と販売促進に積極的に取り組んでいきます。



小山先生を講師に迎えた「食べる牛乳セミナー」

【生活部】

①JA燃料油配送事業強化の取り組み ＜「JANET灯油システム」の導入＞

燃料・ホームエネルギー課では、県下JAの燃料油配送事業の強化を進めるべく、燃料油配送システムの「JANET灯油」の導入・活用を進めております。

JANET灯油は、従来の「ERIX灯油」の後継システムとして平成22年度より県下JAへの導入を開始し、平成29年度を以って旧システムからの

「抵抗なく食べられて、栄養もしっかりとることができる」「組合員の健康の悩みを少しでも改善するために、活かしたい」と今後の活動に役立つセミナーとなりました。

③JAたすけあい組織活動会員などを対象に「食べる牛乳セミナー」開催
フードコーディネーターの小山浩子先生を講師に、JAたすけあい組織活動会員・役員と介護事業所の訪問介護員（ホームヘルパー）を対象とした「食べる牛乳セミナー」を初めて開催しました。デモンストレーションで提案された「ミルク酢豚汁」「さばのミルクみそ煮」などの意外な組み合わせは、「抵抗なく食べられて、栄養もしっかりとることができる」「組合員の健康の悩みを少しでも改善するために、活かしたい」と今後の活動に役立つセミナーとなりました。



JANET灯油システムの端末とHHT

②協同経営SS 5Sの取り組み

協同経営SSでは、平成29年度生活部長方針に基づき5S（整理・整頓・清掃・清潔・しつけ）の徹底に取り組んでいます。従来からSS運営の柱の一つとして、「クレンリネス（常に維持された美化）」の徹底により、お客様とスタッフが快適に過ごせるSS」作

移行が完了しました。現在は県下13JA42拠点で稼働しています。

各JAではJANET灯油に蓄積された顧客データに基づく各種販促施策・配送効率化に取り組んでいます。今後もJA燃料油配送事業を支えるインフラとして、システムの活用を通じて事業基盤の強化を図り、組合員・利用者の営農・生活を支援して参ります。

一般社団法人 長野県農村工業研究所

【研究所のあゆみ】

当研究所は長野県農業の発展を目指す「80年代長野県農協長期構想」の重要な施策として長野県農協の総意により昭和56年4月に設立されました。以来、設立趣旨に基づいた農産物の加工技術・製品開発をはじめ、農家・組合員のニーズに迅速に対応した花きやきのこの新品種育成や農産物の機能性研究、さらには残留農薬検査などによる県産農産物安全性確保への支援など広範な分野での研究開発に取り組んできました。

【業務の紹介】

【食品安全管理室】

県内農産物の安全性確保を目的に、JAグループ農産物の残留農薬自主検査として年間約2,000検体余の検査を実施しています。また微生物検査、栄養成分分析、土壌・水質検査、米の品種判別検査、A・コープ店舗のインストア衛生検査なども行っています。

食品安全管理室は、平成29年8月23

日に化学的試験分野「リンゴのLC/MS/MSを用いた残留農薬アセタミプリドの分析試験」において、ISO/IEC17025:2005の試験所に認定されました。国際取引の場合、ISO/IEC17025:2005に適合した分析機関での分析が求められ、欧米ではすでに義務化されています。当研究所から発行される分析報告書は国際的に通用するものとなります。

【農業開発研究部】

花き類の優良品種育成、農産物の加工技術・製品開発、機能性検証および開発技術を活用した産地JAへの技術支援の業務を行っています。花き類では量販店向けコギクの優良品種育成やランキンキュラスの培養法の開発に取り組んでいます。加工技術・製品開発では果実、野菜類のセミドライ品の開発及び商品化の支援、きのこでは食味評価ならびにうま味を生かした製品開発



食品安全管理室分析業務

【常務理事あいさつ】

当研究所設立に関する基本構想の中に、「自主的な農業振興を図るための基本的施策として本県農畜産物の加工技術ならびに商品化を中心に研究開発をすすめる、食生活の多様化、高度化の進展に対応した農畜産物の付加価値の向上を期するため長野県農村工業研究所を設立する」とあります。JAグループを主導していた先輩方が、40年近くも前に農産物の「付加価値の創造」をめざして先駆的な決断をされていたことに敬服します。時代をこえても当研究所の使命は変わることなく、地域特性・実情に合った研究開発を時代の流れを見据えながら的確・機敏に実践していくことが、当研究所設立趣旨に心えることと考えます。幸いにもこれまでの技術や製品・素材の蓄積、そしてこの民間にも負けない人材が育っています。長野県JAグループに役立つ研究開発に向けて、成果や製品の「出口」をしっかりと意識しながら、産地に根ざした存在価値のある研究所を目指していきたいと思えます。今後ともよろしくご指導をお願いいたします。

機能性検証ではリンゴ加工品の機能性表示食品への対応を進めています。開発製品、成果は全県長野及び関係機関との連携により、事業化を目指しています。



リンゴ無調味
セミドライ製品
(リンゴの風味、食味を生かしたリンゴのみのセミドライ品)

【きのこと開発研究部】

主な研究内容は、エノキタケおよびブナシメジ、エリンギの育種、ブナシメジ用の活性材やきのこ用培地の新規素材を検証する培地開発、ブナシメジ液体種菌技術のような新技術開発、栄



きのこと開発研究部
きこの接種作業



長野県農村工業研究所の施設全景

JR東日本タイヤアップ 大宮駅で サンふじの出荷 スタートをPR

全農長野県本部果実課は11月15日(水)JR大宮駅でサンふじのPRイベントを開きました。サンふじのほか、りんご三兄弟と南水を試食提供し、食べ比べセットを販売。40〜60代の女性を中心に売れていきました。長野県産のサンふじは「品質が良く、おいしい」という評価が多く、まとめ買いをするお客様もいました。りんご三兄弟と南水の長野県オリジナル品種セットは「色々な品種が入っていてうれしい」と好評でした。県オリジナル品種はサンふじに比べるとまだ知名度が低く、誰もが知っている品種となるように、今後も継続して宣伝活動を実施していきます。

今年は信州デスティネーションキャンペーンとJR東日本の新幹線YEAR 2017が重なり、JR駅構内でのPR活動を積極的に行いました。



酪農課からのお知らせ

信州がおいしい農協牛乳 頑張れ!御嶽海関キャンペーン

「信州がおいしい農協牛乳」のバーコードを集めて応募すると、抽選で「信州プレミアム牛肉」または「ミルク日記」が当たるキャンペーンを実施中です。皆さまのご応募をお待ちしています!

■プレゼント賞品

- ・信州プレミアム牛肉(400g) 10名様
- ・毎日を元気に過ごすためのミルクの本「ミルク日記」 30名様

■応募方法

農協牛乳のパッケージについているバーコードを切り取り、4枚一口として店頭へ備え付けの応募用紙または下記ホームページより応募用紙を印刷し、必要事項をご記入の上、封書にてご応募ください。

■応募締切

平成30年1月28日(日) 当日消印有効

■応募先

〒380-8709 日本郵便 長野支店 私書箱26号
JA全農長野「頑張れ! 御嶽海関キャンペーン」係

応募用紙はこちら

やっぱ信州の牛乳でしょ

検索



1月の動き▶

総務広報課	1/4(木)	仕事始め
改革推進・企画課	2/1(木)	県青協・全農長野意見交換会 JA長野県ビル
野菜花き課	2/1(木)〜2(金)	第49回信州フラワーショーウィンターセレクション JA南信会館
酪農課	12/25(月)〜1/28(日)	信州がおいしい 農協牛乳 頑張れ!御嶽海関キャンペーン

Hakuba47スキー場で きのこメニューを食べよう!

Hakuba47スキー場のレストランで、信州きのこたっぷりメニューを提供中です。

信州きのこは全国シェアNo.1!

長野県内のスキー場で開催している「ゲレ食バトル」にも参加しています。

◇信州きのこたっぷりオムカレー 1,300円(レストラン アリス)

きのこの旨みもカレーに溶け出して、シャキシャキ感もたまらない!さらにふわとろのたまごでボリュームアップした「きのこオムカレー」登場!!

◇信州きのこヘルシー丼 950円(レストラン アリス)

なめ茸、ながいも、オクラと温泉たまごのネバトロな口当たりが抜群のヘルシーな丼です!!

◇信州みそ きのこピザ 1,400円(ピザハウス ルイス)

きのこのシャキシャキ感と長野の誇る「信州みそ」が生み出す抜群な美味しさをぜひご賞味ください!!

※イラストはイメージです。※表示価格は税込です。

1月のラジオ番組表▶

放送日時	放送局	番組名	放送内容(予定)
1/9(火) 16:10	SBCラジオ	情報わんさかGO!GO!ワイドらじ☆カン内「ミルクマガジン」	学校給食栄養教諭のお話
1/16(火) 16:10	SBCラジオ	情報わんさかGO!GO!ワイドらじ☆カン内「ミルクマガジン」	乳和食のレシピ紹介
1/23(火) 16:10	SBCラジオ	情報わんさかGO!GO!ワイドらじ☆カン内「ミルクマガジン」	牛乳クイズ
1/30(火) 16:10	SBCラジオ	情報わんさかGO!GO!ワイドらじ☆カン内「ミルクマガジン」	1級フードアナリスト 中島麻希さんのお話

編集後記

冬怖いのがインフルエンザです。今シーズンも感染者がかなり出ていると報道がありました。インフルエンザ防止には、やはり予防接種が基本と思いますが、あわせて日常の予防対策も重要です。予防接種への過信は禁物、ワクチンには菌を殺す働きはないので感染しないとはならないそうです。

普段心がけることは、□こまめな手洗い □帰ったらうがい □マスクの着用 □部屋の加湿 □免疫力の維持(きちんと食事・睡眠・運動)などなど。

他のケア方法では「乳酸菌」が有名ですが、最近、「ココア」も予防効果が期待できるという研究成果がだされたそうです。尚、ココアの香りなどにはリラックス効果もあると言われています。疲れた身体を癒す意味でも、この冬はゆったり暖かいココアがおすすめです。

2018年が始まりました。読者の皆さまにとって健康で素晴らしい一年になることをお祈りいたします。今年もグリーンレーダーをよろしく願います。(K)

小平奈緒は、 「信州」を食べて 育ちました。

スピードスケート
小平奈緒 選手
所属:相澤病院(松本市)



長野県の美味しい作物は
みつやま
「三ツ山マーク」をつけて
出荷しています。

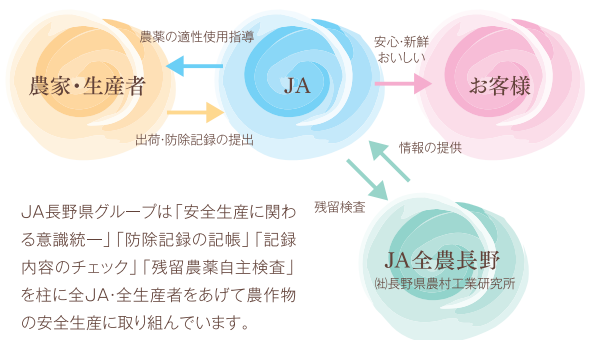
JA全農長野は、信頼される産地を目指し、
安心安全な農産物の供給に努めています。

産地産直で信州を食べよう!!



インターネット通販
JAタウン 僕はおいしい応援団

『安心・新鮮・おいしさ』を
お届けできるワケ



ながの★ゲンキ
みらい★ミカタ
JA全農長野



〒380-8614 長野県長野市大字南長野北石堂町1177番地3

信州力
JA全農長野農産物PRキャラクター



光と風と水のハーモニー
JA全農長野

JA全農長野ホームページ <http://www.nn.zennoh.or.jp>
インターネットで産地直送「JAタウン」 <http://www.ja-town.com>

